

高等学校音楽科教材『歌の翼に』の日本語歌詞に関する研究② ～ドイツ語のサウンドに基づいた日本語歌詞の演奏の試み～

Research on the Japanese lyrics of “Uta no Tsubasa ni” for high school music course materials

An attempt to play Japanese lyrics based on German sounds

飯泉 琴都 (武蔵野音楽大学研修員)

Koto Iizumi (Trainee of Musashino Academia Musicae)

(キーワード)

歌詞、高等学校音楽科教科書、日本語歌詞、ドイツ歌曲

1. 研究の経緯

高等学校の教科書に取り上げられている外国の歌曲には、同一曲に複数の日本語歌詞が存在しているが、これらは実際に教材として取り扱った場合、たまたま出会った教科書の歌詞を歌うのではなく、一教材として検討する必要があるのではないかと考えられる。

本研究では、メンデルスゾーン作曲『歌の翼に』を取り上げ研究を進める。

2. 楽曲について～歌の翼に(Auf Flügeln des Gesanges)～

ハインリヒ・ハイネ(1797年12月31日～1856年2月17日)が1827年に作詞した「歌の本 Buch der Lieder」に書かれている詩に、フェリックス・メンデルスゾーンが1836年に作曲したドイツ歌曲である。「6つの歌曲」作品34の第2曲目で、のちにメンデルスゾーンの妻になるセシル・シャルロット・ソフィア・ジャンルノーへの思いが歌われている。

3. これまでの研究

①2023年の第17回研究発表および2024年3月の音楽教育メディア研究第10巻

ハイネと日本人作家4名(津川主一、門馬直衛、久野静夫、林望)の作詞家による詩の歌詞分析を行った。

分析の結果、歌詞の母音共通する部分と異

なった部分があった。これは言語の違いによる母音の仕組みが異なるためある程度予想していた。

しかし、ドイツ歌曲のような芸術歌曲を表現する場合その織りなす言葉の響きの再現が重要なのではないかと考えた。

そのように考えると、もし、日本語の歌詞で歌う場合、いかにしてドイツ語歌詞で歌ったときのサウンドに近づけるかという事が高等学校の芸術科音楽を学ぶ上では重要なのではないかと考えた。

そのため、詩の内容に沿って、ハイネの詩のサウンドに近づけた歌詞の試作を試みた。

4. 新しい歌詞の試作の試み

歌詞は以下のようなコンセプトで制作した。3パターン試みた。

- ・ハイネの詩の内容に沿って、分かりやすい言葉を用いた歌詞を目指す。
- ・ハイネの詩のサウンドに近づけた歌詞を目指す。

3パターンの詩は2024年3月の音楽教育メディア研究第10巻に発表済みである。

5. 新しい歌詞の演奏の試み

パターン①、パターン②、パターン③を実際に演奏し、検証した。

動画を元に当日その結果を発表する。